令和６年度　基本評価調書			所管部局	教育庁	所管課	高校教育課	
施策名	国際理解教育の充実				施策コード	1111	
政策の柱	グローバル化				政策体系コード	3(2)A	
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策						事務事業数 6
特定分野別計画	北海道教育推進計画、北海道総合教育大綱						
SDGs					総合判定	やや遅れている	
予算額（千円）	R6	273,997千円	R5	21,171千円	R4	17,064千円	

施策目標	活力ある未来を拓くため、若者の留学支援や、大学等の高等教育機関と連携・協働した教育を推進し、グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材を育成する。
現状と課題	（国際社会の一員としての自覚の育成） ・グローバル化が進展する社会において、多文化共生社会の実現のため、外国語やその背景にある文化を積極的に理解しようとし、様々な価値観を持つ人々と共に協調して生きていく態度を養なうための教育活動を推進する必要がある。 （自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成） ・生徒の英語力が高校卒業段階で英検準2級程度の以上の英語力を有する生徒の割合が、全国平均を下回っているため、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」に関する能力を総合的に養い、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため教育活動を推進する必要がある。

〈主な取組〉

今年度の取組	（国際社会の一員としての自覚の育成） ・関係機関等と連携するなどして、異なる文化や外国人とのふれあいを深める体験交流等の機会の充実の促進 ・海外留学やオンライン交流など、高校生の国際理解や国際交流の機会の充実・支援の推進 （自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成） ・教員向けの研修や授業研究セミナー等を通して、教員の教科指導力の向上を図り、子どもたちが積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成するための英語教育を推進
実績と成果	（国際社会の一員としての自覚の育成） ・異なる文化や外国人とのふれあいを深める体験交流等の機会として、R5は2大学と連携し「Hokkido Study Abroad Program」を開催し、体験交流等の機会の充実を図った。高校生66名が参加し、交流を通じて、海外に対する関心を高めるとともに異文化に対する理解を深めることができた。 ・R5はカナダ・アルバータ州及びアメリカ・ハワイ州のほか、ニュージーランドとも新規で交換留学を実施し、計20名の道側生徒を派遣した。その他、北海道青少年中国友好訪問事業で16名の生徒を北京市に派遣し、国際交流の機会の充実を図った。 ・オンライン交流では、道側高校15校が海外の学校とオンライン交流を行ったほか、道立学校生徒9名がカナダ・アルバータ州の高校生とオンライン交流を行い、海外に対する関心を高めるとともに異文化に対する理解を深めることができた。 （自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成） ・外国語における見方・考え方を活用して、生徒が主体的に探究学習に取り組むことができるよう、道内4ブロックにおいて研究協議会（10月23日、11月5日、11月8日、12月4日）を開催し、授業改善を図ることができた。

参考HP①	国際交流ポータルサイト	https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/a0008/intl/top.html
参考HP②	学校教育局高校教育課	https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/
参考HP③		

令和6年度 基本評価調書	【3(2)A_1111】国際理解教育の充実

〈**指標分析**〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	%	H29年度	R1年度	R3年度	最終目標(R9)	達成率	指標判定
道内の公立高校における留学者(短期及び長期)の割合		目標値	-	0.65	0.71	1.0	1.4%	D
		実績値	0.64	0.35	0.01			

設定理由	グローバル人材の育成に関する施策の進捗を図る指標であり、諸外国の人々と触れ合いながら国際理解を図る機会の充実を図るといった施策の目標に向け、高校生の国際理解や国際交流の機会を充実・支援するという取組に関する成果を測る指標として設定
指標公表時期	隔年調査、実績年度の翌年度3月公表
出典(根拠計画等)	高等学校等における国際交流等の状況について(文科省)

分析(主な取組と成果)

コロナ禍にあったことからR3は目標値を大きく下回る結果となった。道教委としても交換留学事業を中止したが、「Hokkaido Study Abroad Program」及び海外の学校とのオンライン交流の実施など、道立高校生が異文化体験や外国人と交流する機会を充実する取組を進めてきた。今後は、「Hokkaido Study Abroad Program」の連携大学の拡大など外国人と交流する機会を一層充実させることにより、道立高校生の留学につながる取組の更なる推進を図る。

指標名②	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R9)	達成率	指標判定
日常的なコミュニケーションができる英語能力を有する生徒の割合		目標値	50.0	50.0	52.0	60.0	98.3%	B
		実績値	44.1	48.4	51.1			

設定理由	小・中学校における目的や場面、子どもたちの興味・関心に応じた英語によるコミュニケーションを図る授業、高校等における言語活動の充実やパフォーマンステストの実施など、4技能5領域のバランスの取れた英語力の育成に向けた授業改善の推進を図るための取組に関する成果を測る指標として設定
指標公表時期	毎年調査、実績年度の翌年度5月公表
出典(根拠計画等)	公立高等学校における英語教育実施状況調査

分析(主な取組と成果)

英語能力に関する外部試験を受験した生徒が増加(R4:45.3%、R5:47.7)したことに伴い、前年度から指標数値が上昇したものの、目標を達成することができなかった。今後、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等において、教員の授業改善について指導助言を行う。

指標名①	増加	%	R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					―	―
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					―	―
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					―	―
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【3(2)A_1111】国際理解教育の充実

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) 外国語科の各科目の内容の充実を図るため、中学校における学習内容との接続の観点を踏まえた高等学校における英語教育の充実に向けた取組の推進や、大学教授を講師とした研修会等の実施が必要である。 --- (取組と成果) 中学校の英語教育の実態を把握し、授業研究セミナー(R5参加者:98名)において、それを踏まえた高校における英語教育の在り方について指導助言を行うとともに、大学教授を招へいし、授業改善に向けた取組の一層の充実を図った。
緊急性 優先性	(課題) 令和5年度の国の調査では、本道において日本語指導が必要な児童生徒はR3調査から大幅に増加するとともに、居住する地域の散在化や使用する言語の多様化が見られることから、学校及び市町村教育委員会に対して、日本語指導の体制構築に向けた支援の充実を図る必要がある。 ・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒(札幌市を除く)　R3:108名 → R5:183名 ・日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒(札幌市を除く) R3: 26名 → R5: 63名 --- (取組と成果) 有識者や関係機関による運営協議会を実施するとともに、教員等の日本語指導の指導力及び専門性の向上を図るための研修会を年3回実施。また、道内各地域における外国人児童生徒等の受入れ状況や指導体制などについて情報交流し、各学校における日本語指導の充実を図るため、全道4ブロックで地域別情報交流会を開催するなど、日本語指導の体制構築に向けた支援の充実に取り組んでいる。

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
国際理解教育を行っている公立高校の割合	100%(R4)	100%(R5)	100%(R6)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
姉妹校との生徒交流や外国人による講演などを行う公立高校の取組の改善、また、国際的な分野で活躍できる人材の育成や交際理解教育の充実を図るため、本統計数値の割合を現状に保つ必要がある。

(状況) 海外短期留学の促進や、外国人留学生との交流など、各学校において特色ある国際理解教育が行われている。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)

(状況)	

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)

(状況)	

令和6年度 基本評価調書	【3(2)A_1111】国際理解教育の充実

〈総合判定〉

指標判定	C※	連携状況	○	総合判定	やや遅れている
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標
（道内の公立高校における留学者（短期及び長期）の割合）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	コロナ終息後における高校生の留学を促進するため、交換留学事業を拡大するとともに、外国人留学生との交流機会の充実やオンライン交流など、留学の機運を高める取組を推進する。
	②	主体的に探究に取り組む生徒の育成のため、英語教員に対して、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等において、学習指導要領の趣旨を徹底する。また、効果的な指導方法に関わるワークショップや研究協議を通して、教科指導力の向上を図る。
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策評価	【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、グローバルな視点を持って本道の地域活性化に貢献する人材を育成するため、友好提携地域などへの派遣や交換留学などを通じた高校生の国際理解の醸成を推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応	高校生交換留学促進事業を継続実施するとともに、「高大連携による『Hokkaido Study Abroad Program』」の連携大学を拡大し国際交流の機会を充実させることにより、高校生の国際理解の醸成を推進する。	
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	これまでに覚書を締結した国・地域との交換留学実現に向けた調整を行うほか、「高大連携による『Hokkaido Study Abroad Program』」の連携大学の拡大、オンライン交流の実施により、高校生の留学機運を高める取組を推進する。
	②	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、英語教員に対する協議会やセミナーにおいて、より具体的な提言やポイントを絞った研究協議を実施する。
	③	

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	国際理解教育の充実	施策コード	1111

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費(千円)	事業費(千円)	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト(千円)	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応(令和6年度) 次年度方向性	ACTION 結果への対応(令和6年度) 二次評価意見への対応状況
0718		一般	帰国・外国人生徒等教育推進講師報酬	日本語指導が必要な生徒に対する指導・支援を行う講師の報酬	高校教育課		1,449	967	0.1	0.1	0.2	3,051					
0753		一般	教育指導費(高等学校関連)	高等学校における英語教育等の充実を図るための英語指導助手を海外から招致し教育局や道立高校に配置	高校教育課		251,561	250,271	0.5	1.0	1.5	263,576					
0777		事務	国際交流推進に係る企画及び調整等に関する事務	国際理解教育及び国際交流の推進に係る各種調整・調査等の実施	高校教育課		0	0	0.3	0.0	0.3	2,403	①②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	改善	高校生交換留学促進事業を継続実施するとともに、「高大連携による『Hokkaido Study Abroad Program』」の連携大学を拡大し国際交流の機会を充実させることにより、高校生の国際理解の醸成を推進する。
0778		一般	高校生交換留学促進事業費	国際的視野を持ち本道の国際交流をリードするグローバル人材の育成を推進するとともに、姉妹提携地域等との友好と親善を促進するため、同地域等と高校生の交換留学を実施	高校教育課		10,953	2,313	3.2	0.3	3.5	38,988	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	改善	
0813		一般	帰国・外国人児童生徒等教育推進事業費	帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな指導支援体制を整備	義務教育課		1,704	1,277	0.2	1.6	1.8	16,122					
0791		一般	グローバル人材育成推進事業	豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、高校生の海外留学等を促進する	高校教育課		8,330	2,330	0.5	0.3	0.8	14,738	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	改善	高校生交換留学促進事業を継続実施するとともに、「高大連携による『Hokkaido Study Abroad Program』」の連携大学を拡大し国際交流の機会を充実させることにより、高校生の国際理解の醸成を推進する。
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
計						0	273,997	257,158	4.8	3.3	8.1						